

平成 1 7 年 8 月

試験研究業務月報



京都市内の青枯病汚染ほ場での抵抗性の調査

奥「台三郎」、手前「トルバム・ビガー」

「トルバム・ビガー」は青枯病が発生しているが、「台三郎」は未発病である。

ナス青枯病抵抗性台木「台三郎」の収量性

府内のナス産地では青枯病の被害が広がっており、既存の抵抗性台木では効果に限界があります。そこで、野菜茶業研究所が育成した、新しいナス青枯病抵抗性台木「台三郎」について検討しています。

「台三郎」の収量性については、一般的な「トルバム・ビガー」台木と比較して、現在のところ「千両二号」では同等、山科ナスで6割減収となっています。山科ナスで接ぎ木不親和による大幅な減収が認められることから、今後賀茂ナス等に対する適応性を検討する必要があります。

青枯病抵抗性については、京都市内の青枯病汚染ほ場で観察を続けていますが、上の写真のように非常に強い抵抗性が認められ、「千両二号」用台木として有望です。

農業総合研究所